

①	A		②	⑧
		③		
	④			
⑤	B	C	⑦	
	⑥	D		

- ①熊本の大地は〇〇山の4度の噴火で
できあがったよ
- ②降った雨は〇〇にあつまって、海に流
れていくよ
- ③熊本市を含む11市町村は熊本〇〇〇
と呼ばれていて、地下水を共有している
んだ！
- ④地下水はゆっくり流れているので、
〇〇され、きれいな地下水になるよ
- ⑤地下水の出口ともいわれる、地下から湧き出た水のこと
- ⑥この暗号を〇〇〇〇してやる！

ひらがなは全部
 ぼくがいないとこに
 文字を入れてみてね！
 できたら、下の四角に
 文字をならべてみよう！

- ①空から降^ふってくるもの
- ②熊本市を流れる白川^{しろかわ}や緑川^{みどりかわ}は有明^{ありあけ}〇〇につながっているよ
- ③熊本地域^{ちいき}は〇〇〇〇に恵^{めぐ}まれた地域^{ちいき}なんだ
- ④学校の〇〇〇を走^{はし}ったらダメだよ！
- ⑦地下水^{あめ}をくみ上げる場所^{ばしょ}のことを〇〇と言うよ
- ⑧〇〇〇運^{うん}転^{てん}は事故^{じこ}のもと！

A

B

C

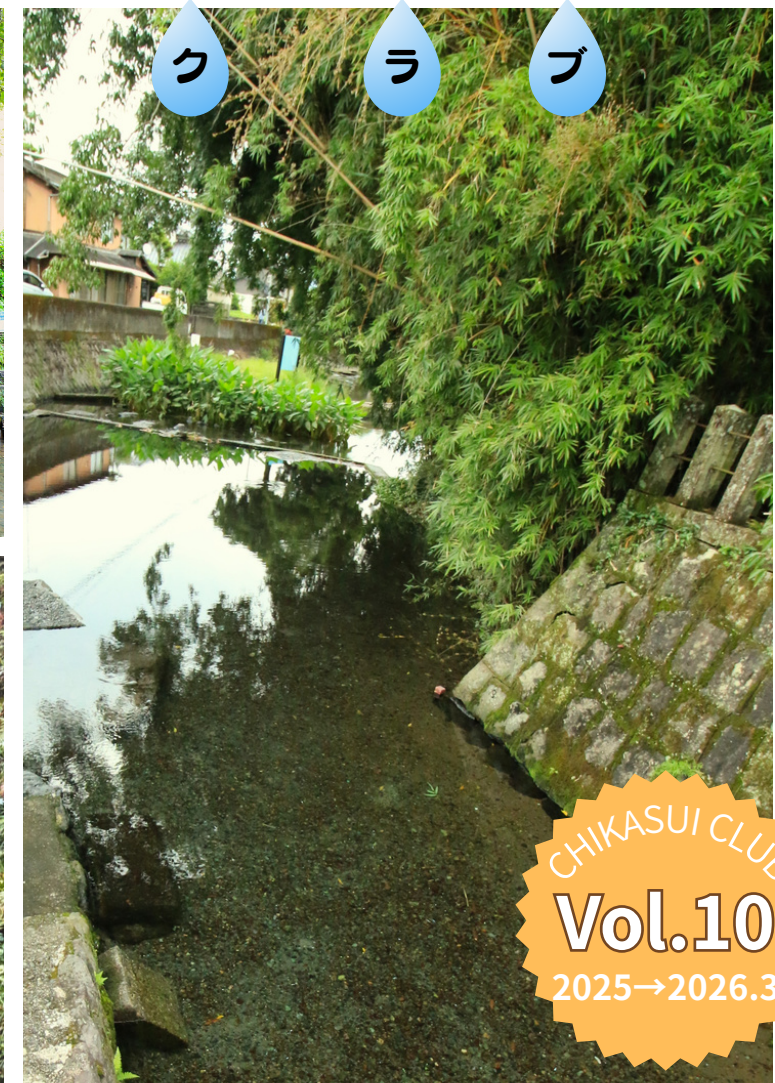
D

そうすい
想水それは…
熊本の水を
大切におも想うこと



TEL:096-227-6678
Mail: info@kumamotogwf.or.jp

①あそ ②かわ ③ちいさ ④さか ⑤ゆさび ⑥かいいい >
たてのこたえ ①あめ ②かい ③ちかすい ④ささか ⑦いい ⑧わさか



作者紹介

財団では、令和7年度から「アドバンスプログラム」をスタートしました。水のことをもっと知りたい、高校生・大学生が集まり、水について学び、考え、チャレンジするプログラムです。今年度は、参加した2人がキッズ会報誌づくりに挑戦。

「水って、当たり前あ前まえにあるけど、本当はすごい！」そんな気づきから、「当たり前あ前まえに気づく」をキーワードに、

P1 当たり前にある水。それって当たり前？
～国連水会議2023レポート～

P2 水を^{まも}るおしごととインタビュー

- ・サントリー(株)九州熊本工場様 きゅうしゅう こうじょうさま
- ・熊本タクシー(株) お手水^{おてすい}の森様 もりさま

について、みなさんにわかりやすく紹介していきます。



くまもとけんりつだいがく ねん
熊本県立大学 1年
みやざき
宮崎 かりん さん

くまもとけんりつだいがく ねん
熊本県立大学 3年
こうし たける
合志 健 さん

当たり前にある水。それって当たり前？

当たり前のように使っている水。それって本当に当たり前でしょうか？

2023年にニューヨークの国連本部で世界の国々が集まり、水の問題について話し合う「国連水会議2023」に参加した2人に、世界の水事情や会議に参加して感じたことなどを聞いてみました。



国連水会議2023に参加



Photo：ニューヨーク国連本部前

——国連水会議とは？どんなことを伝えましたか？

（合志さん）
国連水会議とは、世界中の人が安心してきれいな水やトイレを使えるようにするために、水不足や水の汚染などの問題について各国が集まり話し合う国際会議です。私は、水問題を「自分事」として考える大切さについて話しました。

（宮崎さん）
私は、熊本の水の魅力や現状、若者の水に対する意識について話しました。熊本の地下水の役割と魅力を世界に伝える、とても貴重で意義のある時間になりました。



国連水会議2023に参加して感じたこと

——世界の国々の水の話聞き驚いたことはありましたか？

（合志さん）
熊本では水道水を直接飲んだり料理に使ったり、安い値段で飲み物を買ったりすることが当たり前ですが、こうした環境が世界では決して当たり前ではないことを実体験として強く感じ、驚きを覚えました。

（宮崎さん）
世界には水が足りない国があることは以前から知っていましたが、水はあっても「使える水」ではない国があるという点は新たな発見でした。水が不足している国＝水そのものが足りない、という単純な話ではなく、水質の問題に直面している国も多いということが印象的でした。



——世界の水と比べて、熊本の水や地下水は、どんなところが違うと感じましたか？

（合志さん）
世界の水と熊本の水を比較すると、世界には自分や家族が生きていくための最低限の水さえ確保できない国がある一方で、熊本では安全な水を当たり前のように使える環境が整っています。その大きな差に驚くと同時に、この恵まれた水環境を次の世代に引き継ぐ責任を強く感じました。

（宮崎さん）
世界の水は、命をつなぐために確保するものという印象を強く受けました。一方で熊本の水は、自然の形をできるだけ保ちながら守り、未来につなぐ存在だと思っています。これは、人々の生活や文化の中に水が循環し、暮らしの一部として根付いていることにも表れており、世界の水と異なる点だと感じました。



水を守るおしごとインタビュー

わたしたちのまわりに、当たり前のようにある地下水。この水はどうやって守られているのでしょうか。地下水について学んでいく中で、企業も地下水保全に取り組んでいることを知り、地下水を大切にする企業を2人が訪ねてインタビュー。水を未来へつなぐための工夫や想いを聞きました。



サントリー(株)九州熊本工場 様インタビュー

〈サントリーと水〉

サントリーは、「サントリー天然水」や「なっちゃん」などの飲み物やビールを作っている日本の会社です。地下水（天然水）を原料として使う、水が事業の中心となる企業です。主な活動として、森を守って地下水を育てる「天然水の森」や、子どもたちに水の大切さを伝える「水育」に取り組み、また地域と連携した保全活動など水を使いながら守り、次の世代へつなぐことを目指しています。



〈サントリー様からのメッセージ〉

水を守ること、それは「ふるさとを守ること」です。日本は水に恵まれた国ですが、その水は決して当たり前のものではありません。将来、水についてさまざまな問題が起こる可能性があります。だからこそ、水を汚さず、大切に使い、次の世代へ受け継いでいく意識を持った大人になってほしいです。

サントリーの地下水保全についてのインタビューを通して、「水を使う企業だからこそ水を守る責任がある」という強い想いのもと、社員の方一人ひとりが、高い志を持って取り組んでいる姿勢が強く印象に残りました。（合志健）



熊本タクシー(株) お手水の森 様インタビュー

〈お手水の森と水〉

お手水の森では、湧き水を自然のまま生かし、水と生き物たちの環境を守っています。今ある水を未来につなぐために、毎日の手入れは欠かせません。大切にしているのは、水に対して“誠実さ”、“志”を持って「出てきている水をどう使い、どうきれいに流すか」。自然をできるだけ保つ形で管理することで、いつでも安全で美しい水が保たれています。



〈お手水の森様からのメッセージ〉

日本では、水はあるのが当たり前に感じられますが、世界には水を買わなければ飲めない場所もあります。ここに水があること、その水を守っている人がいることを、まず知ってほしいと思っています。そして、次の世代へ伝えていく「順送り」で、水を未来へつないでいきましょう。

お手水の森の方々が、水の恵みに感謝し丁寧に向き合う姿から、「水を守る」とは「想う」ことから始まるのだと感じました。水があるのを当たり前のように思える今の幸せに意識を向けること。その一人ひとりの小さな心がけが、未来へ水のバトンをつなぐ大きな力になると思いました。（宮崎かりん）

